

日本漁業にフロンティアは存在するか？

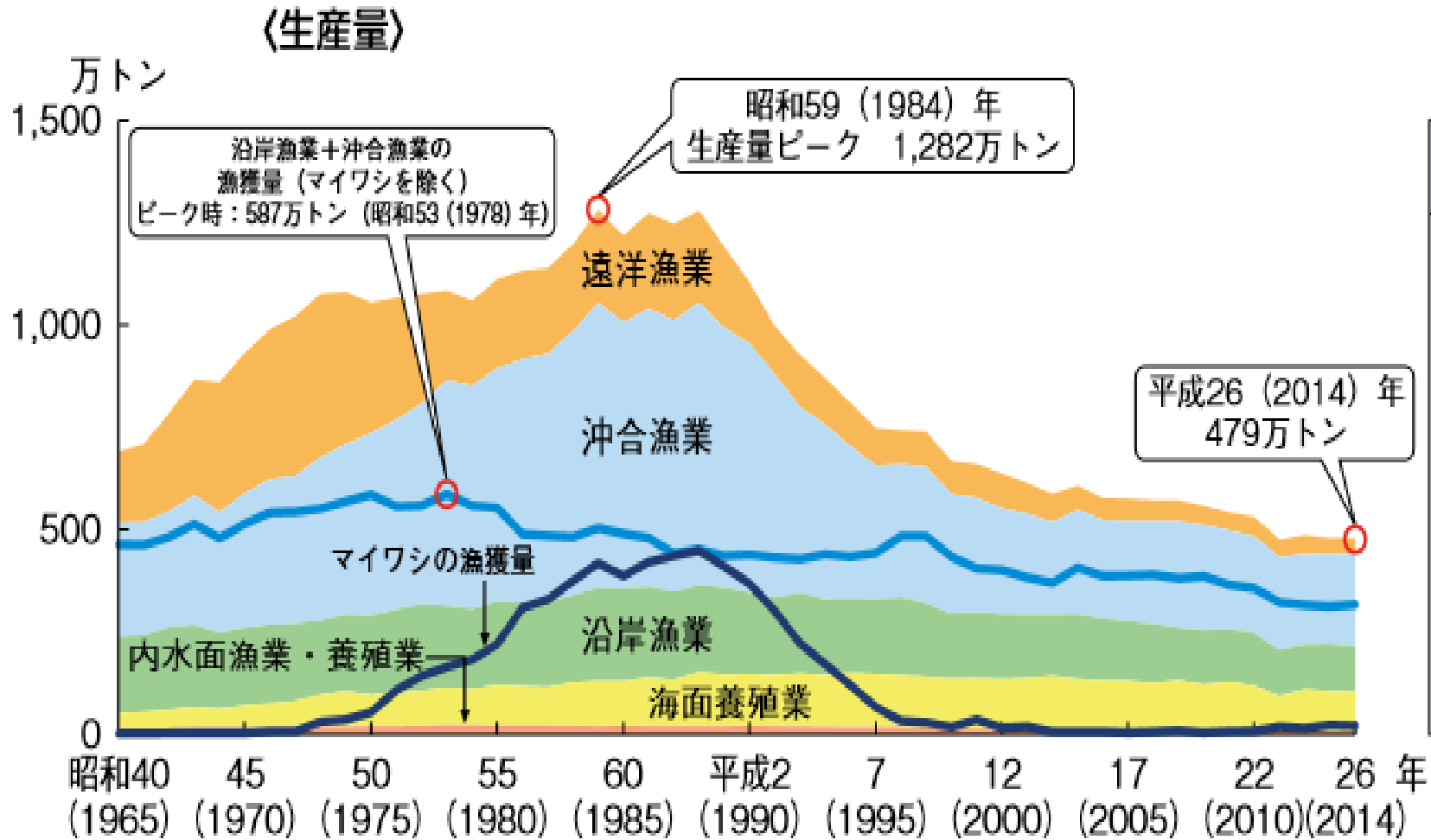
日本海洋政策学会第8回年次大会パネル・ディスカッション
『海のフロンティアを拓く ―日本型海域管理の将来像―』

2016年12月3日

東京海洋大学 森 下 丈 二

右肩下がりの日本漁業

図Ⅱ-2-1 漁業・養殖業の生産量・額の推移

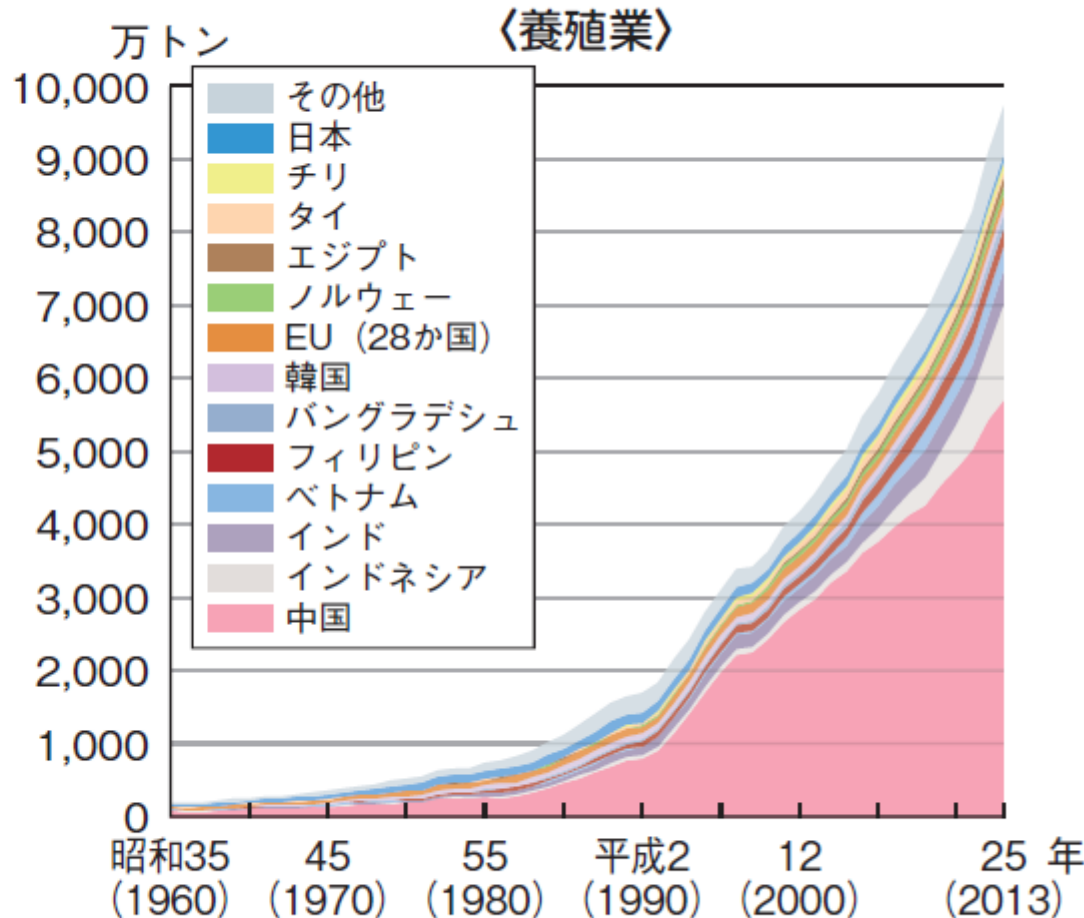
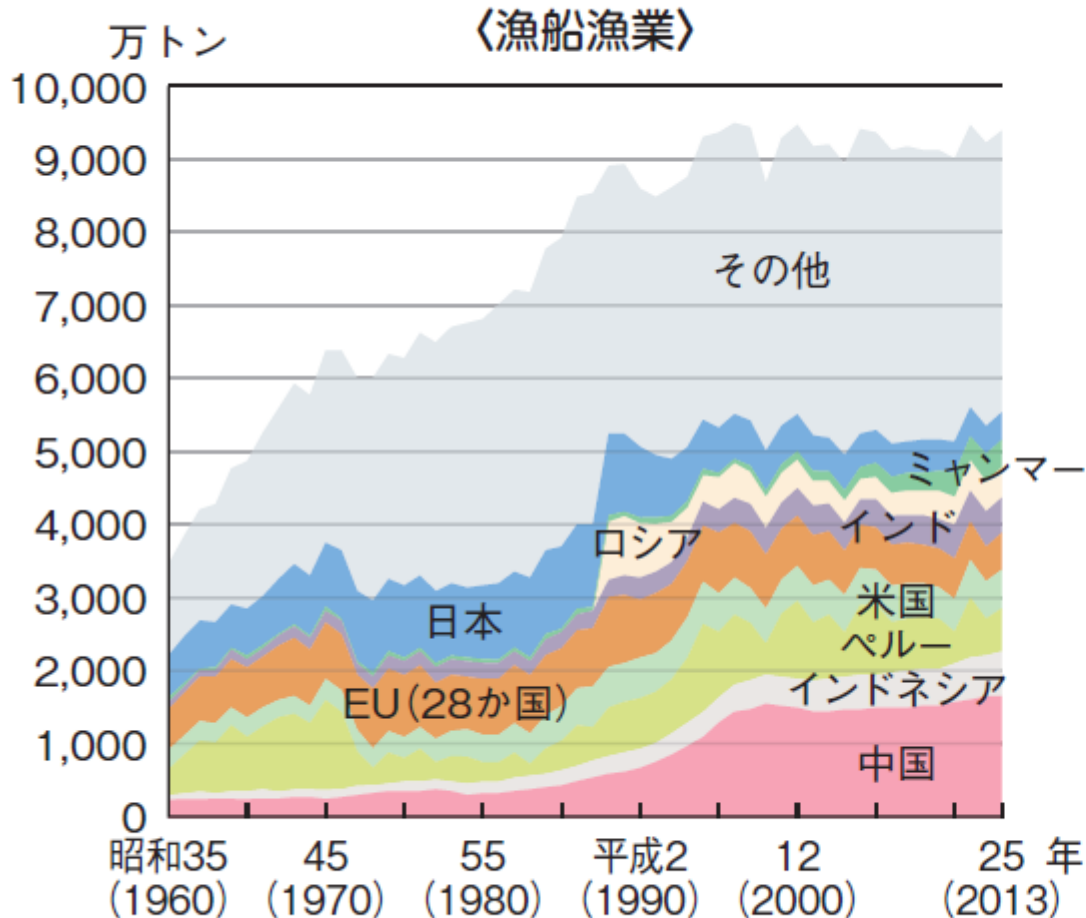


		平成26年 (2014)
生 産 量	合計	4,793
	海面	4,728
	漁業	3,741
	遠洋漁業	369
	沖合漁業	2,274
	沿岸漁業	1,098
	養殖業	988
	内水面	64
漁業	31	
養殖業	34	

(平成27年度水産白書)

右肩上がりりの世界の漁業

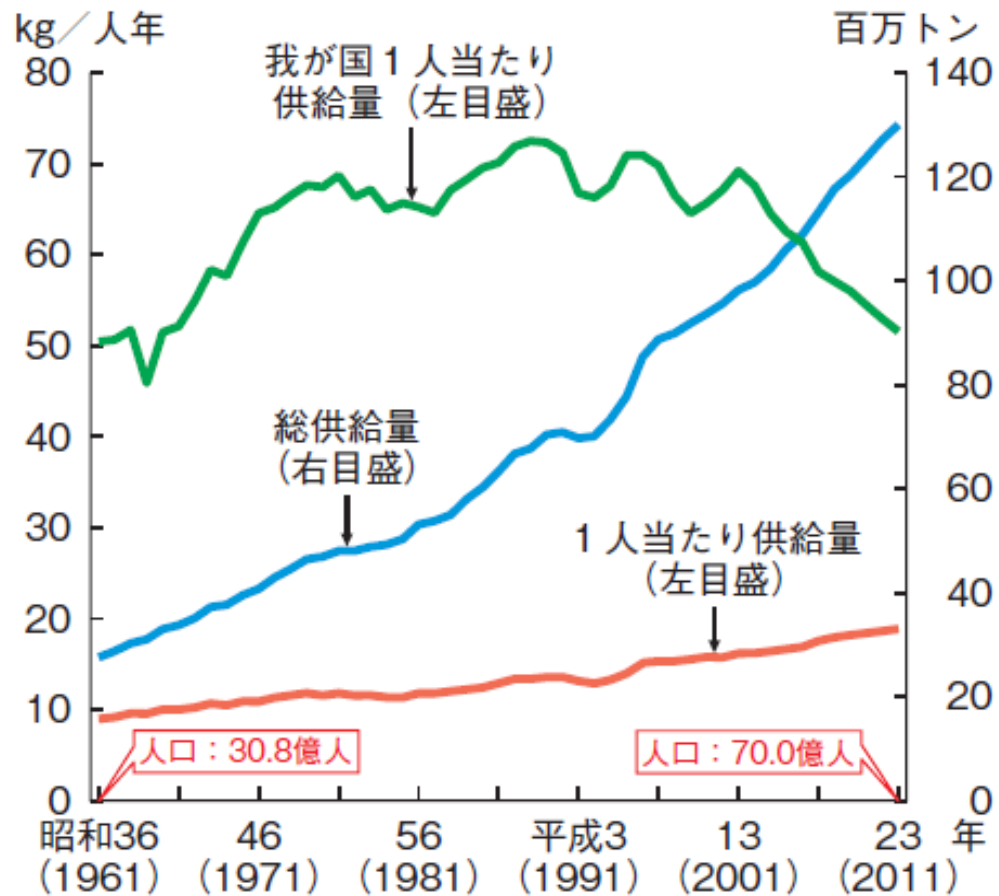
世界の漁業・養殖業生産量の推移（国別）



資料：FAO「Fishstat (Capture Production、Aquaculture Production)」(日本以外の国) 及び農林水産省「漁業・養殖業生産統計」(日本)

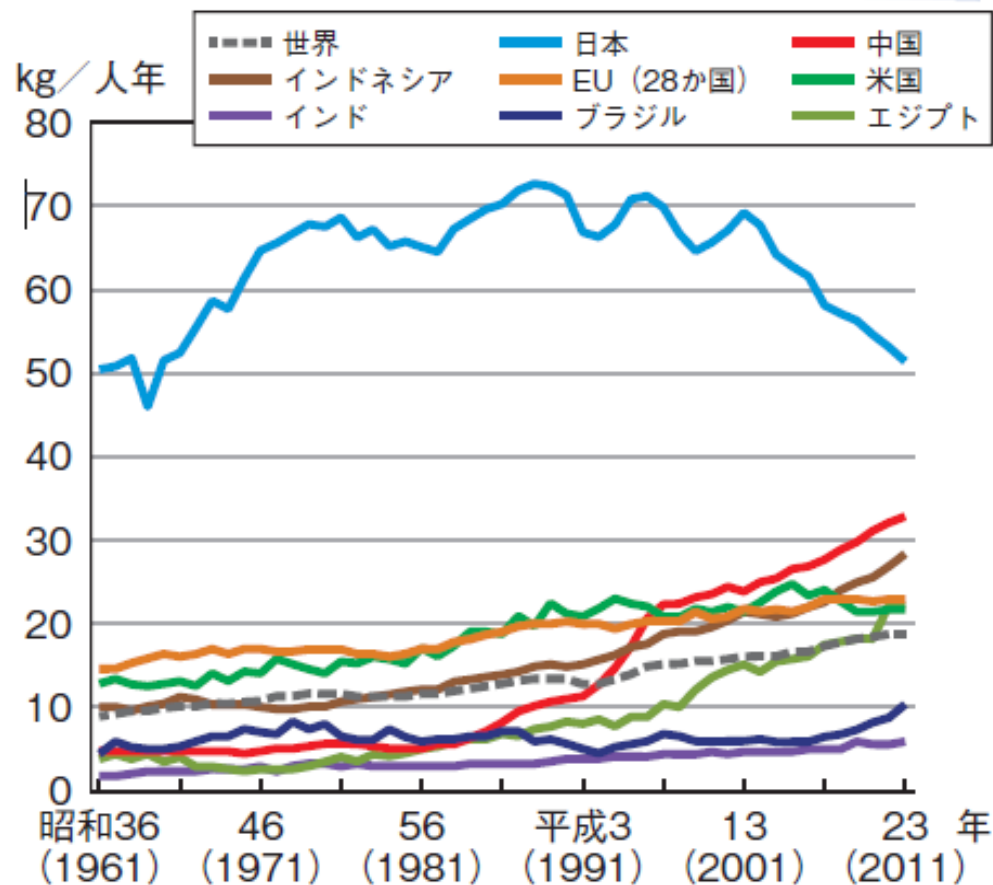
日本以外では食用水産物供給量が増加

世界の食用魚介類供給量と人口の推移



資料: FAO [Food balance sheets]、UN [World Population Prospects]、農林水産省「食料需給表」

世界の食用魚介類の年間国内供給量の推移 (1人当たり主要国別)



資料: FAO [Food balance sheets]、農林水産省「食料需給表」

世界の国の食料自給率

米国	127% (2011)		
ドイツ	92% (2011)	←	67% (1961)
フランス	129% (2011)		
イギリス	72% (2011)	←	42% (1961)
豪州	205% (2011)		
カナダ	258% (2011)	←	102% (1961)
日本	39% (2011)	←	78% (1961)

フード・マイレージ

日本は 総量でフランスの8.6倍、米国の3倍、韓国の2.8倍
一人当りで米国の7倍、フランスの4倍、韓国の1.1倍
(農林水産省農林水産政策研究所の中田哲也政策研究調整官(当時)の2001年の試算)

日本漁業のフロンティアとは？

- ∅ 少量で多様な水産物製品の流通システムの復活
均一多量の流通システムからの脱却を図る、ITや運送システムの活用
- ∅ 大市場志向から限定市場志向へのシフト
地元でしか味わえないという差別化、地産地消、交通網の整備発達を背景に
- ∅ 排他的な漁業権の確保から連携の場としてのZoningの設定、そして順応的管理
市民、消費者、教育、観光などとの連携
- ∅ 環境負荷の少ない漁業の達成
海洋生態系の下位の魚種の有効利用、養殖飼料の改善、地産地消